

# 環境配慮行動の意識構造分析：TABLE FOR TWO メニューの選択行動を事例に

北九州市立大学 学生会員 坂本 捺稀  
北九州市立大学 正 会 員 松本 亨

## 1. はじめに

環境配慮行動とは「環境に配慮して自発的に行う生活行動、購入行動、交通行動、環境保全活動への参加」のことを言う。しかしながら、消費者の購買行動をはじめとして、環境配慮などへの関心・意識と実際の行動は必ずしも一致しないことが既往の研究において示されている<sup>1)</sup>。その要因として環境問題の知識・情報が具体的に捉えられないこと、環境行動の結果が実感しにくいこと、社会的ジレンマ等が挙げられている。そのため、社会規範、費用便益意識なども考慮した、人々の知識、意識と行動の関係を詳細に分析する必要性が認識されている<sup>2)</sup>。

このような問題意識のもと、ここでは TABLE FOR TWO（以下 TFT）に注目した。TFT とは、開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む社会貢献運動である。参加企業や大学の食堂において、一部メニューを対象に、1 食につき 20 円の寄付金が開発途上国の子供一人分の給食費として利用されるしくみである。本研究では TFT の選択行動分析を通じて、地球環境や食糧問題への配慮商品の選択行動分析を行い、より一般的な購買行動モデルを得ることを目的としている。

## 2. 調査方法

### 2.1 調査概要

調査の概要を、表 1 に示す。

表 1 調査概要

|         |                              |
|---------|------------------------------|
| 調査日     | 2014年10月30日(北九州市立大学北方キャンパス)  |
|         | 2014年11月4日(北九州市立大学ひびきのキャンパス) |
|         | 2014年12月18日(九州工業大学戸畑キャンパス)   |
| 調査場所    | 各大学食堂                        |
| 対象者     | 食堂内の利用者                      |
| 配布・回収方法 | 各テーブルに配布後、回収ボックスにて回収         |

質問は Q8 を除き、選択肢式である。質問内容は、独自の購買行動モデルを作成し、それに付随した質問項目を設定した。モデルの作成方法については、環境配慮行動の規定因モデルである広瀬モデルと消費者心理プロセスモデルである AIDMA、AISCEAS を用いて融合させ、環境配慮と購買心理を考慮したモデルを想定した。モデルは Q9 に反映させている。

設問内容を、表 2 に示す。

表 2 設問内容

|       |                                                   |
|-------|---------------------------------------------------|
| Q1    | あなたの性別を教えてください。                                   |
| Q2    | あなたの国籍を教えてください。                                   |
| Q3    | あなたの職業、学年を教えてください。                                |
| Q4    | ボランティア活動に興味がありますか？                                |
| Q5    | 普段気をつけて行っている環境にやさしい行動を教えてください。（〇はいくつでも）           |
| Q6    | "TABLE FOR TWO"について                               |
| Q7    | これまで"TABLE FOR TWO"のメニューを選んだことがありますか。             |
| Q8    | Q7の理由を教えてください                                     |
| Q9-1  | あなたは普段、意識的に環境にやさしい行動をしている。                        |
| Q9-2  | 発展途上国の飢餓問題は深刻なものである。                              |
| Q9-3  | 発展途上国の飢餓問題は身近な問題である。                              |
| Q9-4  | 発展途上国の飢餓問題の責任は先進国にある。                             |
| Q9-5  | あなたの食べ過ぎや残飯の量だけ飢餓で苦しむ国に寄付できればと思う。                 |
| Q9-6  | TABLE FOR TWOは飢餓問題に対してとても有効な方法だ。                  |
| Q9-7  | あなたがTABLE FOR TWOのメニューを選択することで、周囲（友人、家族等）からの評価が上が |
| Q9-8  | 友人などがTABLE FOR TWOのメニューをよく選ぶようになったら、あなたも選びたくなる。   |
| Q9-9  | 発展途上国の飢餓問題をどう改善していくかの知識が自分に十分にある。                 |
| Q9-10 | TABLE FOR TWOの対象のメニューに、自分の好みのものがない。               |
| Q9-11 | 発展途上国への寄付のためにメニューの価格が若干高くても、支援ができていのであれば満足でき      |
| Q9-12 | テレビやインターネット、学校教育などで飢餓問題についての情報をよく目にしてきた。          |
| Q9-13 | 普段の生活で、過食や残飯が気になることがある。                           |
| Q9-14 | テレビやインターネット、学校教育などで飢餓問題の情報は、興味を引くものだった。           |
| Q9-15 | TABLE FOR TWOについてさらに詳細に知りたい。                      |
| Q9-16 | TABLE FOR TWOのメニューがあれば積極的に選んでいきたい。                |
| Q9-17 | 同じものを購入するならば、多少価格が高くてもTABLE FOR TWOの商品を購入したい。     |
| Q9-18 | TABLE FOR TWOの活動を行っている団体に対して信頼感がある。               |

表 3 に、集計結果を示す

表 3 集計結果

| 大学名                | 回答数 | 有効回答数 | 無効回答数 |
|--------------------|-----|-------|-------|
| 北九州市立大学(北方キャンパス)   | 102 | 88    | 14    |
| 北九州市立大学(ひびきのキャンパス) | 97  | 88    | 9     |
| 九州工業大学(戸畑キャンパス)    | 90  | 79    | 11    |
| 計                  | 289 | 255   | 34    |

### 2.2 回答者の属性

回答者の属性を、表 4 に示す。

表 4 回答者の属性

|       |        |             |
|-------|--------|-------------|
| 性別    | 男      | 70.6%(180人) |
|       | 女      | 29.4%(75人)  |
| 国籍    | 日本     | 95.7%(244人) |
|       | 海外     | 4.3%(11人)   |
| 職業・学年 | 学部1年   | 23.5%(60人)  |
|       | 学部2年   | 19.2%(49人)  |
|       | 学部3年   | 14.9%(38人)  |
|       | 学部4年   | 23.1%(59人)  |
|       | 博士前期課程 | 9.4%(24人)   |
|       | 博士後期課程 | 0.8%(2人)    |
|       | 教職員    | 2.7%(7人)    |
|       | その他    | 6.3%(16人)   |

## 3. 調査結果

### 3.1 ボランティアへの関心と TFT メニューの選択における関連性

ボランティアへの関心と TFT メニューの選択における関連性を調べるために、Q4 と Q7 のクロス集計を行った。図 2 に、その結果を示す。

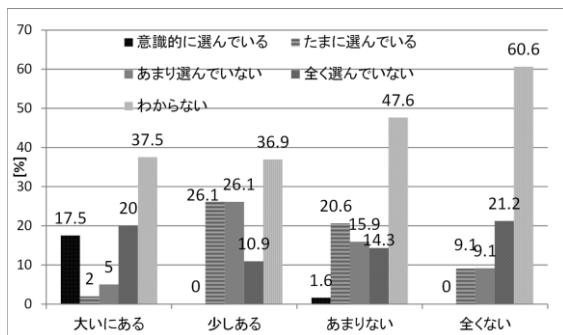


図2 Q4とQ7のクロス集計

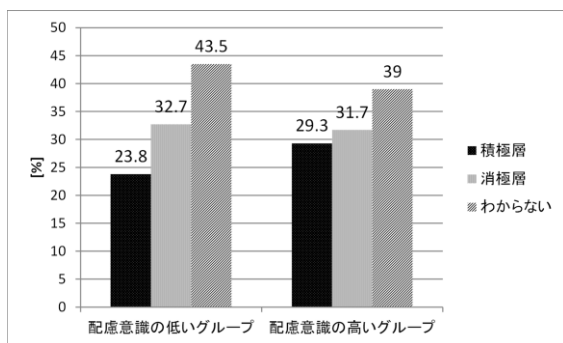


図3 Q5とQ7のクロス集計

ここで「意識的に選んでいる」に注目すると、ボランティアへの興味が「大いにある」を選択したグループが17.5%で独立している。対照的に「わからない」に注目すると「あまりない」「まったくない」を選択したグループはTFTについて無関心であることが読み取れる

### 3.2 環境配慮行動とTFTメニューの選択における関連性

普段行っている環境配慮行動とTFT選択における関連性を調べるため、まず、Q5の複数回答の中で、0～2個チェックを入れた層(意識の低いグループ)、3～6個チェックを入れた層(意識の高いグループ)に分けた。また、Q7の回答の中で「意識的に選んでいる」、「たまに選んでいる」を回答した層を積極層とし、「あまり選んでいない」、「全く選んでいない」を回答した層を消極層として「わからない」を回答した層とともにクロス集計を行った(図3)。

ここで、意識の高いグループは低グループと比べ積極層の割合が高いことがわかる。

### 3.3 TFTメニューの選択と購買行動の関連性

次にTFTメニューの選択と図1の購買行動モデルに沿った質問の回答を用いたクロス集計を行い、関連性を調べた。Q9の結果から表5のように各選択肢に点数化して集計した。Q7の「意識的に選んでいる」、「たまに選んでいる」を選択頻度の高いグループ、「あまり選んでいない」、「全く選んでいない」を選択頻度の低いグループとし、「わからない」グループも含め

グループそれぞれの平均点を出し、グラフ化した(図4)。なお、Q9-10の回答においては、点数を逆にしている。

ここで選択頻度が高いグループと選択頻度が低いグループの差に注目し、差の検定を行った。t検定を行ったところ、Q9-2、Q9-5、Q9-13において有意水準1%で有意差があると判断できた。このことにより「飢餓問題の深刻さの理解」、「普段の過食や残飯が気になること」がTFTの選択に大きく関わると判断できる。

## 4. 今後の課題

本研究では、ボランティア意識、環境配慮意識、購買モデルに従った質問に対する回答とTFTメニューの選択の関連を分析した。ボランティア意識、環境配慮意識ともに、それらの意識の高い層のTFTメニューの選択に積極的な傾向が見受けられた。また、飢餓問題の深刻さの理解や普段の過食、残飯が気になるということが、TFTメニューの選択の大きな要因となる傾向も明確になった。今後は、共分散構造分析を用いて、仮説モデルの検証を行い、購買行動の決定要因を明らかにすることが課題である。

表5 Q9の選択肢の点数化

| 選択肢       | 点数 |
|-----------|----|
| 非常にそう思う   | 6  |
| そう思う      | 5  |
| 少しそう思う    | 4  |
| あまりそう思わない | 3  |
| そう思わない    | 2  |
| 全くそう思わない  | 1  |

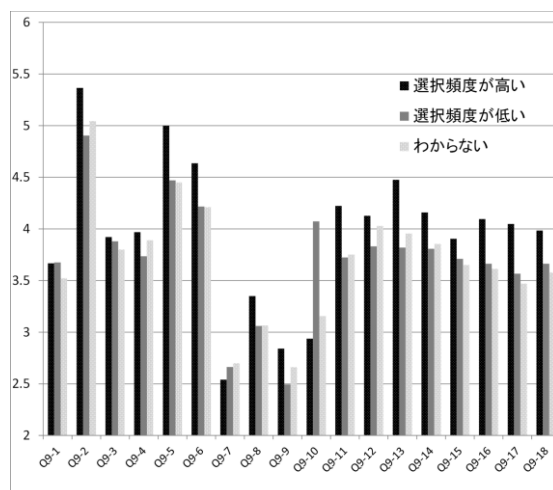


図4 TFTメニュー選択と購買行動の関係

## 参考文献

- 1)李振坤(2009)エコ購買行動意図の規定要因、横浜国際社会科学研究所、第14巻第4号、79-91
- 2)広瀬幸雄(1994)環境配慮的行動の規定要因について、社会心理研究、第10巻1号44-55